

---

# 筒井筒

長月 夕子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

筒井筒

### 【Nコード】

N3965E

### 【作者名】

長月 夕子

### 【あらすじ】

webきらら佳作入選作品です。webきららは1000字以内の小説を書いている方にはおすすめのコンテストです。

その男は30歳を節目に結婚する。彼の人生設計にはそう書いてあるからだ。相手は幼馴染と決めた。幼馴染はおとなく控えめで、容姿もまた然り。要は地味でつまらないタイプではあるが、結婚とは生活である。生活とはそういうものだと思っていた。実は幼馴染が密かにこの男へ好意を抱いていたので、難なく男は結婚することができた。無論男は、その好意の存在を知っていたのだが。

穏やかな二人の生活が始まる。それは凧いだ太平洋にひっそりと浮かんだ小さな船のようであった。船の周囲には美しい海がある。美しい海しかない。1年も経つ頃、男は気付くのだ。「穏やかな生活」を望むには自分が少し若すぎるということを。

男は職場で企画プロジェクトのリーダーを務めることになった。大方は彼の意見に右へ倣えのチームであったが、どこかしら案件の穴を見つけては鋭く切り込む人物がいた。ビーズをちりばめた爪で不機嫌に机を鳴らす。大きな瞳で彼を睨んだと思えば、会議が終わるとコーヒーを淹れてくれたりする。面白い女だ。

男がその女と深く関わるようになるまで、さほど時間はかからなかった。「休日出勤」や「残業」が目立つようになって、妻は変わらず笑顔で男を送り出した。愚鈍であるということは幸せなことだ。男はただ青いだけの空を見上げてそう呟く。

ある平日の午後、外回りから帰社する為には有楽町の駅へ向かっていた。西武付近で妻を見つける。今日は外出する予定だったろうか？膝丈のトレンチコートのベルトをリボン結びのようにして、裾をひらめかせ颯爽と歩く妻は、彼の把握している人物とは少し違って見えた。表情は明るく華やいている。黒い髪がツヤツヤと肩にふれて揺れる。

どこへ行くのだろうか？男の頭に漫然と浮かんだ疑問はやがて疑念となって頭をもたげた。まさか。男か？

隠れるように妻の後を追う。妻は銀座三越へ入っていく。まっすぐ紳士服売り場へ。見るからに高級なネクタイの前で立ち止まる。店員が妻に話しかける。二人の会話が耳に入った時、男は虚を衝かれて呆然とする。

「主人の誕生日なんです」  
妻は頬を染めて、笑みを浮かべた。

「ねえ、何を考えているの？」  
女が男の耳元で囁く。

「ネクタイのこと」  
「ネクタイ！斬新ね。ソレで今日はどんな楽しいコトをしてくれるのかしら？」

女の赤いマニキュアが男の唇にふれ、首筋をなぞる。

「長い夜になりそうね」  
長い夜になりそうだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3965e/>

---

筒井筒

2010年10月13日04時10分発行